

A Letter from the Career

Guidance Office NO 7 May8

毎年、各大学の志願者数は大きく変動します。今回はその要因を紹介します。志願者数が変動する要因には、以下のようなことが考えられます。

◇ 入試科目の変更

神戸大経済 2次試験が英数国の3教科型から、数学 or 英数での受験が可能に
→志願者5%増
兵庫教育大 実技（体育・音楽など）試験廃止→志願者増

◇ センター試験の難易度

今年は、センター試験の難化で、受験生が関西から中四国へ
島根大 125（昨年比） 徳島大 115

◇ 隔年現象

前年、倍率が低かった大学には受験生が集中
島根県立大 229（22%減の反動）石川県立看護大 136（46%減の反動）

◇ 募集人員の変更・日程の廃止や縮小

- ・ 県立広島大学 人間文化学部と経営情報学部が統合
募集人員 前期 123→85人 →志願者前期 40%減
- ・ 大阪大法学部 後期日程廃止
→神戸35%増 岡山33%増 大阪市立17%増
- ・ 香川大創造工 定員増260→330人 志願者54%増
徳島 20%減・高知69%減・高知工科24%減

受験生は入試科目の変更に非常に敏感です。以前に神戸大学経済学部で2次試験科目の変更が行われました。これまで英数国の3科目必須でしたが、数学のみ、あるいは英数での受験が可能になったために人気を集めました。来年は共通テスト英語のリーディングとリスニングの配点比率や調査書の点数化などが影響しそうです。

今年はセンター試験の数学が難化したため、数学の点数の低かった受験生が、数学の配点の少ない島根大に集まりました。また思うように点数の取れなかった受験生が、安全志向で近畿から中四国へ流れました。また隔年現象は特に顕著に毎年、見られる現象です。前年の

倍率が低かった場合、受験生が集中する傾向があります。前年に倍率が低いからと言って安心せず、十分に注意をして下さい。学部の改組・日程の変更・募集人員の変更も受験生の志望動向に大きな影響を与えます。大阪大学法学部では後期日程が廃止されたため、受験生が近隣の大学に流れました。また香川大創造工では募集人員が増加したため人気を集め、近隣の大学の志願者が大幅に減少しました。

次に来年度の新設大学、学部改組を紹介します。

◇新規設置

公立叡啓大（広島市）ソーシャルシステムデザイン学部

◇学部改組

神戸大 海事科学部→海洋政策科学部（3→1 学科に統合）

岡山大 工・環境理工→工学部に統合

岡山県立大 デザイン学部（2→3 学科に改組）

保健福祉学部保健福祉学科を現代福祉・子ども学科に分割

新規に設置される公立叡啓大ソーシャルシステムデザイン学部は、日英 2 か国語で授業し、SDGs を意識した学びに力を入れるほか、地域や企業などとの連携、海外留学に力を入れていくそうです。

